

図 書 紹 介

Masatoshi M. Yoshino, ed. *Water Balance of Monsoon Asia—A Climatological Approach—*. University of Tokyo Press, 1971. 308 pp.

モンスーンアジアは、ほぼアジアの稲作圏と重なるとしてよからう。モンスーンは、この地域の人々の生活のリズムを規制し、農業の成否を支配する。われわれ東南アジアの自然や社会に関心をもつものにとって、モンスーンと、それに伴う乾雨季の交代、水の過剰と水の不足などの問題は、きわめて身近なものといえるだろう。

本書は、このモンスーンアジアの水収支の問題への、気候学的な立場からの接近の成果であり、15篇の研究論文を、次の五つのパートにわけて収録している。

- I. General Introduction
- II. Water Balance and Atmospheric Circulation over Monsoon Asia
- III. Summer Monsoon and Distribution of Wetness
- IV. Secular Variation of Precipitation or Climatic Change over Monsoon Asia
- V. Representation of Wetness and Dryness of Monsoon Asia by Climatological Indices

上述したように、これらは気候学専門家諸氏の研究論文であって、われわれ専門外の人間にとっては、始めから終りまで理解できるという内容のものでない。しかしたとえばパート I の Water Balance Problems in Monsoon Asia from the Viewpoint of Climatology (Yoshino) は本書で扱われている問題の歴史的な経過と現状を教えてくれるし、その中で用いられている経度・緯度別の雨期開始時期の一覧表は、われわれにとっても有用なものである。ただこの表が北緯 20°以南の地域を含んでいないのはおしまれる。

またパート IV の Climatic Change in the Quaternary in Asia: A Review (Tabuchi & Urushibara) は地形や土壌の発達と関係の深い第四紀における気候変化を扱っていて興味深い。ここでも南アジア、

東南アジア地域に関しては資料が少ないためか、十分に論じられていないうらみはあるが。

パート V の 3 論文は、多くの気候要素の一種の総括としての気候的地域区分を扱っており、専門外の人間にとってはもっとも興味深く、かつ有用な部分ではなかろうか。よく知られている Köppen 法や Thornthwaite 法による気候区分のほかにも、Lang の Regenfaktor, Martonne の Aridity Index, Angström の Coefficient of Humidity, 吉良の湿度指数と湿潤指数などの気候指標による区分も、すべて地図上にプロットされている。これらの研究からの一つの結論として、モンスーンアジアが予想よりも乾燥的である (Kayane) と記されているのが注目される。同じことが、東南アジアの多くの地域についていえることは、先に筆者も指摘したところである (東南アジア研究, 9 巻 1 号)。またモンスーン地帯の気候や水収支問題を扱う場合に、季節的な変動の大きさをよく示しうるような、新しい気候指標が必要であるという提言 (Kawamura) は、東南アジアについて、もっとも時宜をえたものであると思われる。

法政大学の吉野氏を中心とする気候学者グループは、現在も引続きモンスーンアジアの気候上の諸問題に関する共同研究を進めておられるようで、その成果は大いに期待されるところである。

最後に、この本を生み出すもととなった共同作業の中で、下記の文献目録が出版されていることを付記しておきたい。

I. Tsuchiya: Selected Bibliography on Water Balance of Monsoon Asia (I) and (II). Climatological Notes, No. 3(1969) and No. 8 (1971), Dept. of Geography, Hosei University, Tokyo

(久馬一剛・東南ア研)

James C. Ingram. *Economic Change in Thailand 1850-1970*. Stanford: Stanford University Press, 1971. xii + 352 pp.

University of North Carolina の James C. Ingram 教授の 1955 年版の *Economic Change in Thailand*